平成３０年度授業づくり研修講座実践レポート

論理的な文章を書く力を高める指導

講師　東京学芸大学准教授　中村　和弘氏

受講者　相模が丘小学校　国際学級　寺門拓海

相模が丘小学校の国際学級では現在８名の児童が来級しており、主に所属学級の国語と算数の時間に取り出しによる指導を行っている。児童の日本語の能力は、日本語を学び始めた初期の段階、身近な日本語の単語を覚え２語文程で話すことができる段階、日常会話はできるが読みや書きに支援が必要な段階等、様々である。そのため、国際学級では児童の日本語の能力に合わせて個別指導を行っている。日本語の初期段階の学習は、ひらがなの習得や日本語での会話、母語と日本語のマッチング、絵カードと日本語のマッチングを行っている。教科書の音読は範唱を聞いて行ったり、ふりがなを読んだりしながら行っている。

実践内容

・児童にとって楽しい経験である遠足について文章を書く。

・児童と対話し遠足について自由に想起させる。その際、話しやすさに重点を置き聞いていく。遠足の写真を見せ思い出せるようにする。

・遠足について印象に残っている内容を教員が箇条書きで整理する。

・絵を描くことが好きな児童は先に絵を描かせる。

・その時の気持ちや理由について整理する。気持ちを表す日本語のカードを選ばせる。

・書く内容の順番を決め児童と共に作文にしていく。

・書いた作文を声にして読む。

成果と課題

作文に慣れていないため書き進めることに負担感のある児童には、事柄をしぼって書くようにすると少し楽に進められるように感じた。また、絵を描かせてからその絵の説明をするように書くとスムーズな児童もいた。国際級で作文を行う場合、一対一の個別指導が必要となり時間もかかるので授業の中で取り上げにくいこともあるが、短文を書く経験を普段から積み重ねていけるようにしていきたい。論理的に書くというテーマは課題として残るが、まずは事実や経験、その時の状況や気持ちを書けるようにしていきたい。



